

タワーマンション向けメーターボックス扉 icomon (アイコモン) を発売 長年培ってきた施工ノウハウ×高品質な鋼板×国内屈指の製造ラインにより 工期短縮・高品質を実現

野原産業エンジニアリング株式会社(本社：東京都新宿区、代表取締役社長：及川通)は、紅忠スチール株式会社(本社：東京都中央区、代表取締役社長：大越政幸、以下「紅忠スチール」)および株式会社稲葉製作所(本社：東京都大田区、代表取締役社長：稲葉裕次郎、以下「稲葉製作所」)と共同で、20階建て以上のタワーマンションなどの乾式¹⁾による内廊下(うちろうか)用に規格化されたスチール製メーターボックス扉「icomon (アイコモン)」(以下、本製品)を開発しました。

2022年5月より、野原産業エンジニアリングが本製品を全国で販売(価格や仕様等の詳細は別紙参照)、初年度販売目標は1万本です。

本製品は、確かな施工ノウハウを持つ野原産業エンジニアリング、高品質な鋼板を扱う紅忠スチール、ものづくりと言えば「やっぱりイナバ」稲葉製作所、3社の知見を生かして規格化したメーターボックス扉です。規格化により、稲葉製作所の工場自動ラインでの製造による大量生産・高品質化、製造と施工の効率化及び工期短縮、コスト削減を実現しました。結果、将来ニーズに合わせた改修工事にも対応しやすく、修繕費用削減にもなるため、入居者にとっても多数のメリットを兼ね備えています。

▶icomon (アイコモン) の設置イメージ_型番: L1420



現状はタワーマンションをメインターゲットとしておりますが、今後はオフィスビルや商業施設も視野に入れた営業戦略を展開してまいります。

■主な背景

1. メーターボックス扉設置の従来工法の課題

メーターボックス扉は、住宅やビルなどの建築物で、電力量計や水道メーター、ガスメーターなどを収納する空間をふさぐ扉です。

従来のマンション住戸のメーターボックス扉は、物件ごと・住戸ごとにデザインや大きさが異なるため、規格化されておらず、溶接や塗装を始めとするいくつもの工程を経て設置されていました。

このような従来工法では、製造と現場施工に長期間を要してしまい、また高コストになることが課題となっていました。

2. 再開発計画によるタワーマンションの増加

都内を中心に、2030年を見据えた再開発計画が続いています。再開発計画には、商業施設やオフィスに住宅を加えた複合開発で、20階建て以上のタワーマンションも少なくありません。

3. 建設業界の人材不足と就業者の高齢化

高齢化・人員不足が進む建設業界では、製造や施工における「生産性向上」・「効率改善」は業界全体の最優先課題の一つでもあります。

■製品情報

別紙または、以下の製品ページをご覧ください。

https://nohara-eng.co.jp/business_outline/interior/icomon/

■販売概要

販売窓口：野原産業エンジニアリング株式会社（担当：野口・松田・加地）

価格・サイズ・カラーバリエーション：別紙のとおり

年間販売目標：年間1万本

問合せ先：（電話）03-3357-3141/（フォーム入力）<https://nohara-eng.co.jp/contact/>

共同開発企業について

会社名：紅忠スチール株式会社

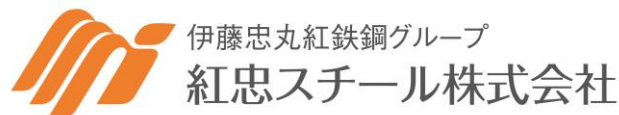
所在地：東京都中央区日本橋1-4-1
日本橋一丁目ビルディング16階

代表者：代表取締役社長 大越政幸

設立：2013年10月

事業内容：建材薄板、自動車鋼材他の販売

WEB：<https://www.st-benichu.com/index.html>



会社名：株式会社稲葉製作所

所在地：東京都大田区矢口2丁目5番25号

代表者：代表取締役社長 稲葉裕次郎

設立：1950年11月 ※創業は1940年4月

事業内容：オフィス家具および物置の製造・販売

WEB：<https://www.inaba-ss.co.jp/index.html>



野原産業エンジニアリング株式会社について

野原産業エンジニアリング株式会社は、野原グループの工事を担う事業会社として、金属製建具工事、金属工事、内外装リフォーム、リニューアル工事などの専門工事を得意としています。

豊かな未来を築くキーワードとして「環境・省エネ・安全・安心」を掲げ、地球にやさしく環境に配慮した建材（環境建材）の開発・販売にも注力しています。

昨今では、人工再生木の「WOODSPEC フェザールーパー/グレイスデッキ」が弊社の環境建材を代表するオリジナル製品です。

私たちは、地球にやさしい「商品」「技術」で、お客様の資産価値向上に貢献するとともに、快適空間を追求する提案型エンジニアリング会社を目指します。【WEB】<http://eng.nohara-inc.co.jp/>



【本製品に関するお客さまからの問合せ先】

野原産業エンジニアリング株式会社（担当：野口・松田・加地）

TEL：03-3357-3141

<https://nohara-eng.co.jp/contact/>

【本リリースに関する報道関係者からの問合せ先】

野原ホールディングス株式会社 経営企画部（担当：齋藤）

TEL：03-6328-1576

ⁱ 乾式用とは、本文では乾式壁を指し、石膏ボードを使用した壁のことを言います。主に高層マンションで隣戸の間の壁に用いられます。コンクリート壁に比べて、かなりの軽量化が可能です。